テレジンを語る会いばらき　おたより

# モティール

No. 01　2011.1発行
※モティール・・・チェコ語で蝶

****************************************************************

## テレジンからの命のメッセージ

### 「テレジンを語る会いばらき」発足の集い

みなさま、「テレジンを語る会いばらき」が出発し、新しい年を迎えました。今年は、テレジンの子どもたちの絵画展が初めて開催されてから２０周年にあたります。その年につくば美術館でも開催され、再び同じ場所であの絵に会えることを楽しみにしておられる方もいらっしゃることでしょう。初めてという人やまだ知らないわ、という方には是非お知らせしてください。

******************

２０１０年１２月１９日、「テレジンを語る会いばらき」の発足のつどいに記念講演として野村路子さんにお話をしていただきました。

講演会には、新聞やチラシなどを見て来てくださった方、学校の先生や生徒さん、遠くから駆けつけてくださった方など70人余りの参加者で盛況でした。野村さんの優しい語り口と情熱に、皆さん心温まる感動と感慨を持ち帰られたようです。

******************

アンケート用紙には、平和のために何が出来るのか、自分にとって「生きる」意味とは何なのか、など自分自身に問いかける感想や意見が多くありました。お話の内容は暗くて悲しい出来事なのに、「いいお話を聞けて嬉しかった」「元気が出た」「力がわいてきた」「あったかいものをもらった」という言葉を何人もの人からお聞きしました。

******************

講演後の交流会でも有意義な話し合いがなされました。ユダヤ人だからドイツ人だからパレスチナ人だからではない「子どもの為に大人がどう生きるか」が問題。秋の「テレジン収容所の小さな画家たち展」に向け、もっと多くの人にお知らせし活動の輪が広まるよう勇気が出てきました。

中央絵 / ドリス・ワイゼロヴァー ( 女 )1932 年 5 月 17 日生まれ
1944 年 10 月 4 日アウシュヴィッツへ

右　絵 / キティ・ブルンネロヴァー ( 女 )1931 年 12 月 26 日生まれ
1944 年 5 月 18 日アウシュヴィッツへ

左　絵 / ハナ・カリホヴァー ( 女 )1931 年 11 月 13 日生まれ
1944 年 5 月 15 日アウシュヴィッツへ

**「テレジン収容所の小さな画家たち展」**

予告：2011年10月18日～23日つくば美術館にてテレジン収容所で描かれた子供たちの絵の展覧会を開催します。

「テレジンからの命のメッセージ　～アウシュヴィッツに消えた子どもたち～」

# 野村路子さんのお話

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2010年12月19日、つくばインフォメーションセンターで講演会を行いました。

講演概要

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## テレジンの子どもの絵との出会い

1989年2月、お嬢さんと行った東ヨーロッパの旅。偶然入ったプラハのシナゴークに何でもない子どもの絵があった。その中に首を吊られる絵があった。しかし、何の説明もない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## テレジンのパンフレット

粗末な紙に印刷された、たった８ページのフランス語のパンフレット。辞書を引きながらホテルで徹夜して読んだ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 一日だけの天国

テレジン収容所が国際赤十字の視察の舞台となった。ドイツの思惑により、＜そのときだけの美しい場所＞が演出された。わずかな時間だけ学校を開くことが許可された。教師、小説家、詩人などが先生となった。その中にフリードル・ディッカー・ブランディスという画家がいた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 骨の絵

首つりの絵にあったダビデの星と、体が弱かった幼い娘が描いた骨の絵がだぶって見えた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 伝えることはできる

あなたがそこにいたら、テレジンのフリードル先生と同じことが出来たか。否、でも一つだけ出来ることがある。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 展覧会を開こう

1990年、チェコスロバキア大使館との交渉。ユダヤ博物館の絵。莫大な費用。スポンサー探し。日経新聞への掲載「名画ではないけれど、子どもたちが生きた証。あなたもアンネのお父さんになってくれませんか」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## テレジン収容所の幼い画家たち展

1991年、埼玉県熊谷市を皮切りに全国２３カ所で開催。「ぼくのおやつあげるよ」と言ってくれた男の子。「ぼくが天国に行ったら一緒に遊ぼうね」とノートに書いた子。「たかが子どもの絵」と言った人が「不思議だなあ、この絵は人の心を優しくする」と泣いた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## なぜ紙があったのか、なぜ絵の具やクレヨンがあったのか

1家族50kgという少ない荷物の中に学用品を入れてきた人もあるが、それだけでは足りない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## フリードル・ディッカーとおとなたち

フリードルはトランクに紙、絵の具、布切れなどあらゆる画材をつめた。深く傷ついた子どもたちに笑顔と人間らしい思いやりを取り戻す為に、絵の教室を開いた。しかし、それでも足りない。子どもたちのためにすべての大人が盗みまでして命がけで紙を集めた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 花と蝶々

川崎の小学校の小４研究授業でテレジンの子どもの絵を取り上げたことがある。「チョウチョになって飛んでいきたかったんだね」「お友達をいじめてごめんなさい」優しい心が素直に聞こえる。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 命・平和・出会い

20年間テレジンの子どもたち、大人たちのことを伝えてきて、もっともっと別の意味で反響が出てきた。人との出会いによって新しい発見と教えてもらうことが多い。生き残った人のことなどお話し出来なかったことがたくさんあるが、また次の機会にこの続きをお話ししたい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

参加者の皆様から、たくさんのメッセージをいただきました。その中から少しご紹介します。

# アンケートから

野村路子（テレジンを語りつぐ会代表）

1937 年、東京生まれ。早稲田大学仏文科卒業。コピーライター、タウン誌編集長を経て、ルポルタージュ、エッセイなどを執筆していたが、テレジンの子どもたちの絵と出会い、、91 年より『テレジン収容所の幼い画家たち展』を主催。生き残った “テレジンの子どもたち” へインタビューをかさね、現在も執筆、講演活動を続けている。

テレジンを初めて知りました。こんな不幸な時代を生きた子供たちがいたこと学ぶことができありがとうございました。

（つくば市・女性）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

戦争で犠牲になるのはいつも女性やこども、年寄りと弱い立場の人達です。特に子どもは理由なく訳もわからず・・・ということになり、悲しく思います。大人は子どもを守らなければいけません。どんなことをしても戦争をしてはいけません。

（つくば市）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

展覧会を日本で開催するまでのいきさつの語りを興味深く聞くことができ貴重な場でした。つくばでの展覧会楽しみに待ちたいと思います。絵の先生がトランクいっぱいに手紙や絵の具をつめたエピソードには涙しました。

（つくば市・女性）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

たいへん貴重なお話をありがとうございました。野村さんの何かに導かれるようにして、このテ本人のたくさん、とくに子供たちの心に大切なものを届けたこと、今日私も同じものを受け取ることができ、感謝しています。行動力「気になったこと」を信じて人に広める実現力、伝える力、全てに力をいただきました。

（つくば市・女性）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

牛久で展覧会とコンサートをやった時にも、多くの方々が感動し、まわりの人達に語り伝えて下さいました。“自分さえよければ・・・”という風に考える人の多い現在だからこそ、“本当にたいせつなこと”を伝えていかなければならないと思います。

（牛久市・女性）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

戦後６５年が過ぎ、日本は朝鮮半島の軍事境界線の平和問題に引き込まれてしまいそうな現政権、アメリカと手を切る政策が日本の平和を進める一番と考える。テレジンやアウシュヴィッツは戦争につきものである。教育を正しく伝える（歴史）ことをしておかないと手遅れになる。そんな気持ちを持つ野村さんの話を聞きました。2011年の絵の展示を楽しみにしています。

（つくば市）

テレジンを語る会いばらき　おたより
モティール

# 2011年10月18日～23日 つくば美術館にて「テレジン収容所の小さな画家たち展」を開催します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

テレジンは、第２次世界大戦中のナチス・ドイツの強制収容所のひとつでチェコにありました。収容所には、15,000人のユダヤ人の子ども達がいました。空腹ときびしい労働で疲れはてた子ども達のたった一つの楽しみは、ひそかに絵を描くこと。遊園地やサーカスの思い出、花や蝶、小さい画家達は何でも絵にしました。しかし、

この子ども達のほとんどはアウシュヴッツに送られ、ガス室で殺されたのです。生き残ったのはわずか100人でした。

1945年、テレジン収容所が解放された時、生き残った世話人が子ども達の絵をすべてトランクにつめて持ち出し、プラハのユダヤ人協会に届けました。届けられたのは、4,000枚の絵と、数10枚の詩の原稿でした。たった1枚の絵だけを残して、幼い命をうばわれた子ども達は、戦争のおろかさ、大切な命を虫けらのようにつぶした「力」への怒り…そして、生きて絵を描けることの幸せ、生命の大切さを、今、生きている人々に語りかけています。ノンフィクション作家の野村路子さんは、この絵を日本の子ども達に見てもらいたいと、チェコから譲り受け、1991年から日本の各所で展覧会を開催し、テレジンの子ども達のことを伝えています。

この企画展では、野村路子さんと、譲り受けた絵のレプリカパネルを保管している埼玉県平和資料館の協力を得て、絵と解説パネルの展示を行います。

## 読書会のお知らせ

「15000 人のアンネ・フランク」
テレジン収容所に残された 4000 枚の絵
野村路子著　径書房

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◎読書会第１回
1月19日(水)19時～21時

◎第２回
2月16日(水)19時～21時
場所：つくば市民活動センター
テキスト
「15000人のアンネ・フランク」野村路子著

予約不要：どなたでもご参加できます。
直接おいでください。

テレジンを語る会 いばらき
問合せ：029-823-3484（関谷）
029-856-2286（長田）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

テレジンを語る会いばらきでは、10月の展覧会に向けて学習会やイベントをしていきます。どうぞご参加ください。

市民活動センターにて連絡会議を定期的に開催しています。少しでもお手伝いできる方は、どうぞお越し下さい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

発行／テレジンを語る会 いばらき
No.1 2011.1
(資料提供：テレジンを語りつぐ会・野村路子)